第二部　向丘高校全日制の現況

向丘高校の教育目標

副校長　藤原　成憲

現在、部活動の加入率は七割弱である。もっと生徒に、部活動に加入して欲しいと考えています。部活動は汗を流して達成感を感じることができます。先輩後輩の人間関係や友人との連帯感も育むことができます。高校生が人間的に成長できる多くの要素を、部活動で培うことが出来ます。試合に勝てば嬉しいし、また、頑張ろうという気持ちが生まれます。しかし、負け続けることもありますが、それは人間の成長の糧になります。集団競技の種目では、自分のチームの動きを考えることはもとより、相手チームの動きも考えて、一瞬一瞬を行動しなければなりません。集中力と全体を見通して考え・行動する力が養われます。我慢強く繰り返し実行する姿勢を養うこともできます。私が考えても、部活動には人間を育てる要素がたくさんあります。向丘高校の生徒諸君、是非、何かの部活に加入して青春時代の一ページを築いてください。

部活動で養われた集中力と全体を見通して考え・行動する力は、一方、学習の進め方を考える上で非常に役立ちます。現在の自分の実力でどの大学（学校等）に入学できるかは大切な要素ではありません。部活動と一緒で、常に技能の向上を考えます。「上手くなりたい」＝「学力を高めたい」という発想になります。学習では、「将来、自分は何がやりたい」が大切なことになります。そのために、日々の学習計画を立てることが重要になります。自分の弱点を見つけて補うために、教科書・参考書を何回繰り返し学習するかを考え実行します。

向丘高校の生徒には、部活に学習に、十分その力を発揮できる生徒がたくさんいます。自分を良く見極めて、自分の中の実力・可能性を伸ばして欲しいと考えます。

平成十九年度夏季講習は三十五講座実施されて、生徒の参加予定数は三百二十五名です。部活動は運動部十五団体、文化部十団体が活発に練習しています。生徒会は連日、各クラスは計画的に九月の向陵祭（文化祭）準備のために登校しています。生徒のエネルギーを感じる夏季休業日です。このエネルギーを、未来の自己実現と将来の社会に役立てる人間になる基礎としてほしい。

現戸谷賢司校長は、創立六十周年を節目に「向丘ステップ元年」と捉えています。これまでの歴史と伝統に加え、より一層、学校改善や教育活動の充実に努め、中堅進学校として生徒・保護者や地域はもとより広く中学校からも信頼され、期待される学校となることを最重要課題と考えています。

私達教職員は一丸となり、夏季講習・部活動・委員会活動・ホームルーム活動の生徒のエネルギーを、生徒の自己実現・進路希望の達成に結び付ける努力を組織的・計画的に推進したいと考えています。

本校の校訓は「自主・誠実・明朗」です。それを受けた教育目標は、自主自立の精神に富んだ生徒を育てる。公共心に富み、常に最善の努力をする生徒を育てる。明朗で豊かな心を持つ生徒を育てる。の３点です。

自主自立を実行するには、自分の行動規範を自分で考え実行することが求められます。公共心に富み、常にベストを尽くすためには、自分に対しても他人に対しても、分け隔てのない誠実な考え方が必要です。豊かな心は、自分の考えに固執することなく、他人の考えを受け入れることが出来る優しさが重要です。

これからも向丘高校は、この校訓を受け継ぎ、生徒を教育してまいります。時代や社会の変化に柔軟に対応するとともに、一人一人の生徒の自己実現を支援してまいります。皆様のこれまでにも増してのご支援をお願い申し上げます。

最後に、創立六十周年記念事業にご尽力いただいた東京都教育委員会の皆様及び生徒・保護者・同窓会・教職員・地域等多くの方々に御礼を申し上げます。

学習指導

国語科

平成十五年度の入学生から新教育課程となり、国語科の授業内容もずいぶんと変わりました。具体的には、第一学年次の必履修教科が「国語Ⅰ」から「国語総合」になり、それにともない、単位数が四単位から五単位になったことがもっとも大きな変化でしょう。これによって、第一学年で古典分野の学習により時間をあてられることになり、基礎的な国語力の充実ができるものと期待できます。第二学年次には旧課程で「国語Ⅱ」四単位であったものが、「現代文」二単位と「古典」二単位とに分かれて履修することになりました。実質的な履修単位数は変わっていません。第三学年次には「現代文」が三単位必履修だったものが二単位となり、一単位減となってしまいましたが、これを補うために豊富な選択科目を第三学年に置くことになりました。

平成十九年現在、新教育課程となって三回目の三年生を迎えたに過ぎませんが、選択科目の内容は生徒のニーズに合わせて微妙に変化しています。平成十七年度・十八年度には「国語総合①（現代文入試問題演習）」「国語総合②（古文演習）」「国語総合③（漢文演習）」「国語総合④（世界の文学）」「古典」「国語表現Ⅱ」の六種類の選択科目を置きました。ただし、平成十八年度から卒業単位数が漸減していったこともあり、平成十九年度は「国語総合②」「国語総合③」「国語総合④」の科目の選択希望者が少なく、開講を断念せざるを得ませんでした。しかし、年々強くなる大学進学者の希望に応じて、「国語総合（現代文問題演習）」を四講座、「古典」を二講座、「国語表現Ⅱ」を五講座開講しています。少人数の演習形式での形式を生かしたこれらの授業はおおいに成果をあげていると自負しております。今後も、生徒のニーズに応じた、また、三年間を見据えた国語のカリキュラムを考えて実践していきたいと考えております。

（大塚）

科目の展開から見た学習指導

地歴公民科

現在のカリキュラムの最大の特徴は、学習指導要領で社会科の必修科目として位置付けられた世界史を、二年生で数学Ⅱとの絡み合わせで二単位か四単位の選択にしていることである。つまり世界史を四単位とる生徒は数学Ⅱが二単位となり、反対に世界史を二単位とる生徒は数学Ⅱが四単位になる訳である。理系と文系の選択をここで生徒に迫ろうとしたのかもしれない。また数学Ⅱが二クラス三展開に分かれるため世界史もクラス単位の授業をとりづらくなっている。世界史の側から見るとこの点は課題である。

必修科目はこの他に二単位ずつ一年生で地理と倫理を、三年生で政経と日本史を設けている。入学した生徒は卒業までに公民で倫理・政経を計四単位、地歴で地理・世界史・日本史を少なくとも計六単位履修することになる。

この他に他教科との選択科目として二年生では現代社会と日本史を必修選択の枠に並べ、三年生では日本史、世界史と政経、現代社会の自由選択の講座を開いている。三年の日本史だけが四単位で、他はいずれも二単位連続授業である。特に三年の選択講座は生徒の希望に基づいて開講しているので年度によって若干の変更がある。生徒のニーズに対応するための工夫ではあるが、それ自体が流動的でもあり、やむなく選択した生徒も見受けられる。選択科目を幾つも並べたからよいというものでもなく、必修と選択をどう組み合わせていくか、今後とも検討を要する課題である。

（岡山）

習熟度別授業の実施方法について

数学科

現行の教育課程のもと一学年で数学Ⅰ（三単位）と数学A（二単位）で二クラス三展開の

習熟度別授業を行っています。また、二学年で習熟度に応じて数学Ⅱを四単位(理系希望)と二単位(文系希望)の選択別授業としています。加えて二単位選択者の一部に習熟度別の授業を導入しています。クラスの分け方は一・二学年ともに生徒の希望を優先し、定期考査の成績を加味して決定しています。

一学年での習熟度別授業は生徒の実態に適しており概ね効果があると思われます。しかし、二学年の四単位と二単位の選択別授業は生徒の実態からみて問題を含んでいると考えます。四単位と二単位の選択者数は概ね一対二の比率で推移してきていますが実際に理系に進学する生徒は四単位選択者のさらに半分程度です。そのため、四単位の授業では内容を消化しきれない生徒が出てしまい、逆に二単位の授業では授業数の関係上、内容が不十分なものとなってしまい、結果として生徒の学習意欲の低下を招く一因となっていると考えられます。この状況を変えるためには授業内容を確保しながら消化不良を起こさない程度の単位数を全員に履修させたうえで習熟度別授業を実施し、さらに理系進学希望者に対しては別選択で演習授業を行うことが本校の生徒には適していると考えます。

次回の教育課程変更時に十分な検討がなされることを望みます。

(茅野)

理科

全国的に生徒の理科離れが深刻化しているが、本校も生徒の現状は否定できない状況下にある。しかし、その問題を少しでも解消できることを願い、平成十五年度より学年推移で実施された今のカリキュラムでは、本校理科教育として大きな特徴を出した形となっている。

多くの普通高校では配置していない「理科基礎」を一年次で二単位実施している。「理科基礎」の内容は大きく四分野に分かれている。二年次から実施される各専門分野へスムーズに展開できるよう、加えて生徒の興味・関心を引き出し、導くことを目的に年間の授業計画が作られている。

二年次では、「化学Ⅰ」三単位を必履修科目とし、学校必修科目として「理科選択」三単位、計六単位を実施している。「理科選択」は、生徒の希望により、「生物Ⅰ」「物理Ⅰ」「地学Ⅰ」より選べる形となっている。どの科目も実験・実習を主体として創意・工夫ある授業展開となっている。最近では、E―ラーニング教材の活用やリアルタイムでのインターネットの利用など、視聴覚教具の充実も図られ、他校には無い特徴を出している。

三年次は、自由選択科目として「化学Ⅱ」「生物Ⅱ」「物理Ⅱ」を各四単位で実施している。進路希望にあわせた授業内容、さらに演習、夏期講習を加え、生徒の進路実現に向け、個々のニーズに合わせ実施している。

(工藤)

限られた施設の中での授業計画

保健体育科

現在の向丘のグランドは縦長で小さく各種目をやる上でも制限が多い。体育科の年間計画の中に入っているサッカー、ソフトボールについても正規の大きさは確保できないので、サッカーは八人制、ソフトボールは六人制で簡易ゲームを行っている。グランドの素材は全天候型のゴムチップ製で、現在は表面が薄くなってきており、端の方は捲れている状況である。また、改修を含めて検討する時期にあると思われる。その他、体育館、剣道場、柔道場の限られた施設を有効に利用するために、体育科の年間指導計画も毎年検討している。

現在は一年生三単位、二年生三単位、三年生二単位、三年生自由選択二単位を行っている。一・二年生においては一単位ぶんの男子の武道を柔道と剣道の選択制をとり、女子はダンスを必修としている。その他の二単位ぶんは陸上、器械体操、球技種目を学期ごとに、

夏季には水泳、冬季には中長距離走を集中的に学習している。特に水泳は二十mプールで四コースという小さなものであるため、水泳用の特別時間割を体育の中で計画し各クラスが均等にプールを利用できるようにしている。三年生の体育は一年を四期にわけ、種目別選択で授業を行い、フライングディスクやバードゴルフ等も取り入れ、興味ある種目を選択できるように工夫している。

限られた施設ではあるが、生徒たちの期待にこたえ、体育の授業に興味関心がもてるように努力している。

（阿部）

芸術科

芸術科では「Ⅰ」「Ⅱ」をそれぞれ一、二年次に必修選択科目として、「Ⅲ」と「Ⅰ」を三年次に自由選択科目として設置、開講されている。

一年次の芸術選択は『二単位』の二時間連続授業とし、入学時の希望に若干の調整を加え、「音楽Ⅰ」「美術Ⅰ」「書道Ⅰ」の三科目を二クラス三展開により実施。その比率は例年〈音楽五、美術四、書道三〉を目標にするが、音楽希望の生徒が多い昨今、〈音楽五、美術三、書道二〉や〈三・二・一〉となる傾向が強い。

二年次の芸術Ⅱは一年次に履修した科目をそのまま「音楽Ⅱ」「美術Ⅱ」「書道Ⅱ」として受講させる。他校に於ける芸術Ⅱは最近『一単位』に減じているところもあるが、本校では本来の『二単位』が遵守されており、〝ゆとり〟をもった、充実した授業展開が可能であり、実践されている。

三年次の自由選択科目の「音楽Ⅲ」「美術Ⅲ」「書道Ⅲ」は、一・二年次の「Ⅰ」「Ⅱ」を履修した生徒の中で、関連大学への進学や、より深く高い内容の授業を希望する生徒を対象に開講される。一方「音楽Ⅰ」「美術Ⅰ」「書道Ⅰ」は、一・二年次に履修した科目とは異なる科目の履修や、基本を再度学習したい生徒が希望して受講できるように開講されている。

（進導）

総合的な英語の力

英語科

国際化と多様化する生徒のニーズを受けて、英語科では日々、きめ細やかな指導にあたっています。

一年次必修と三年次選択のオーラル・コミュニケーションではＡＥＴの先生とのティーム・ティーチングを多く取り入れ、日常的な会話を具体的に、またダイナミックに練習する場をつくっています。自己表現を発表する機会も設けており、最初はたどたどしくスピーチをしていた生徒が堂々と発表するさまは頼もしい限りです。ＬＬ教室の機材や視聴覚教材も活用し、英語に対して興味・関心を持つように工夫しています。映画を題材に使うと、いつも眠そうにしている生徒も楽しそうに観ています。

また、近年は中堅進学校として大学進学者が増えてきました。そこで、英語Ⅰの三時間を従来より習熟度別授業で行っていましたが、平成十七年度から英語Ⅱのグラマーの時間にも取り入れ、少人数で分かりやすい授業をめざしています。単語テストや小テスト、ノート提出と生徒に課題をどんどん与え、実力をつけていってもらっています。リーディングの授業は教養的な内容が多く、カンボジアの地雷の話や宇宙飛行士、感動的な物語など、幅広い作品を読んでいます。

これからの社会は地球を舞台に相手の立場を思いやるコミュニケーション力や、自己表現力が大切になってきています。卒業後留学をめざす生徒も増えてきています。卒業した後も胸をはって生きていけるよう、総合的な力をつけていってほしいと願っています。

（大出）

家庭科で育てたい力

家庭科

本校は、「家庭総合」を一学年二単位・三学年二単位合計四単位必履修させている。三学年選択科目としてフードデザイン及び服飾文化。また、少人数制授業形態を導入しており生徒にとっては大変充実した家庭科実習の授業である。

育てたい力として、まず生活者として自分自身が生活を主体的に創ることができる力を養う。生活者として自立するためには、現在の生活をみつめ、将来の生活を展望して生涯発達の視点から生活を考えて生活自立のための基礎的知識および技術の習得の必要性を自覚させる必要がある。少人数制を生かした本校の家庭科は、被服実習でフリースを全員が製作している。艱難辛苦の末、完成の喜びを味わう生徒が年々増えている。調理実習でも生徒の生活力の低下は同じこと。

家庭科は、自分・家族・地域社会の実生活における経験を通して課題を解決していく教科である。自分の人生について考え、将来を展望する想像力を培う。都民としての生活力を養うことができる教科である。

（巣瀬・鶴田）

情報教育

情報科

九十年代後半、パソコン及びインターネットは技術の進歩と共に急速に普及し始めました。更に、携帯電話の普及も加わり、今日の、高度情報通信社会が確立されました。

現在の高度情報通信技術は、想像を遙かに超える勢いで発展し続けています。このような社会情勢の中で、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用し、処理できる能力が現在必要とされています。

そこで、平成一五年度入学生より、教科「情報」が高等学校で必修教科となりました。

本校では、三年次に「情報A」を二単位必修科目としておいています。また、選択科目においても情報の授業があります。

必修の授業では文章作成、表計算、プレゼンテーション等のパソコン実習を中心に授業を行っています。また、選択科目では、ホームページ作成やデータベース等を行っています。更に、インターネットのもたらす問題点（コンピューターウィルス、掲示板や著作権等）についても授業で行っています。

現在大量にあふれている情報を適切に活用し、社会に出て役立つ知識や能力を授業で行っています。

（坂口）

進路指導の最重要課題

「中堅進学校としての確固たる地位を築く」

創立六十周年を迎えるにあたり、本校は「目指す学校像」として選ばれる学校を経営計画の大きな目標とした。その目的達成にあたり、進路指導部では三年間を見通した進路指導計画を作成して着実に「進学指導への道」を歩み始めている。（進路部　鶴田）

３年間の進路指導計画

（平成19年度進路指導年間計画）

	１学年	２学年	３学年
4月	○進路希望調査	○進路希望調査	○進路希望調査
5月	○ 基礎学力判定テスト［2日（水）］	○ 基礎学力判定テスト［2日(水)］	○ 基礎学力判定テスト［2日（水）］ ○ 上級学校種別説明会 ○ 代ゼミ等校外模試申込
6月	○進路の手引き配布	○進路の手引き配布	○進路の手引き配布 ○ 模擬面接希望者全体および種別説明会 ○ 代ゼミ等校外模試申込［２５日（月）］ ＊個人面談
7月	○ 進路ガイダンス［19日(木)］ ○ 上級学校キャンパス見学への案内（資料配布） ＊夏季講習会	○ 進路ガイダンス［19日(木)］ ○ 上級学校キャンパス見学への案内（資料配布） ＊夏季講習会	○ 指定校一覧表掲示［9日(月)］ ○センター試験説明会 ○民間就職希望者儀式［20日(金)］ ＊夏季講習会
8月	＊夏季講習会	＊夏季講習会	＊夏季講習会 ○民間就職希望者指導 ○公務員受験希望者指導
9月	＊ 個人面談 ＊ 宿題テスト	＊ 個人面談 ＊ 選択科目説明会	＊個人面談 ○センター試験願書配布 ○「指定校推薦試験」校内選考会[第1回13日(木)] ○公務員・民間就職試験 ○ 模擬面接指導 ○ 代ゼミ等校外模試申込
１０月	＊選択科目説明会	○公務員等受験希望者説明会	○センター試験出願 ○公務員１次合格者指導 ○ 模擬面接指導 ○ 代ゼミ等「センター試験プレテスト」申込 ＊専門学校推薦試験開始
１１月	＊選択科目仮登録	○ 民間就職希望者個人面談開始 ＊選択科目仮登録	○模擬面接指導 ○代ゼミ等校外模試申込 ＊大学・短大推薦試験開始
１２月	○進路ガイダンス［21日(金)］ ＊選択科目本登録	○ 進路ガイダンス［21日(金)］ ○ 基礎学力判定テスト ＊選択科目本登録	○模擬面接指導 ＊冬季講習会
1月			＊冬季講習会 ○センター試験 【１９日・２０日】 ○センターリサーチ 【２１日】
2月	○推薦入試合格者座談会	○推薦入試合格者座談会	○推薦入試合格者座談会
3月	○一般入試合格者座談会 ＊進路講演会	○一般入試合格者座談会 ＊進路講演会	○一般入試合格者座談会

生徒指導・学校行事

全体および生活指導

本年本校も創立六十周年を迎える。戦後六十二年となるから戦後まもなくの創立である。昭和二十二年。焼け野原となった東京では現在とは全く異なった社会現象が多かったことと思う。女子校として始まった本校も時代の波とともに共学となり現在に至っている。六十周年の間に様々な教育制度が変わり。現在では当たり前のように中学生本人が進みたい高校を選ぶことができる。ある時代では中学生の進みたい通いたい高校を選ぶことができない時代があった。いわゆる、学校群制度である。公教育の使命で群全体として受験するのであった。

時代は平成。高校進学率も飛躍的に伸びて社会に対する都立高校の役目は以前にもまして大きくなっている。また、長引く不況の影響もあって私立高校に行かせる経済力の問題もある。

多くの都立高校では「自由」を標榜している。結果高校独自の意識も薄れ、本校のように生徒諸君には「自由でのびのび」した学校と思われているようだ。しかし、朝のＨＲから昼の外出禁止など細かな制度を張り巡らせていて実行している。「自由」の中にも規範意識をというわけである。しかし家庭での生活が学校生活に色濃く反映しているのは否めないことであろう。原則として禁止している高校生のアルバイト。残念ながら多くの生徒がアルバイトをしている実際がある。家庭での学習時間を削ってバイトに明け暮れる。学習内容が深まりかつ、授業の進度も早くなると言うのに家庭での学習を疎かにしていればやがてツケは自分に巡ってくる。バイトの欠点はなにがしかの金銭のために学生時代にしか持ち得ない自由で気ままな時間が削がれてしまうこと。この時間にクラブ活動など人生を通した活動の筋道を発見することができるのに残念である。「家でゴロゴロしてないで外でバイトでもしてお金を稼ぎなさい」と、躾を放棄するような保護者は少ないかもしれないが、のんびりのびのび生活する中から将来の自分の進むべき道や職業観を育てるのである。昨今大学進学実績を伸ばすために大学受験費用を高校で肩代わりするという報道がされたが、高校の三年間を充実したものにするには興味の発見や楽しい中にも帰属意識や規範意識を高めるもでなければならない。自宅にいれば何不自由なく食も生活もできるのに学校という社会に入れば規範意識が強要される。その時期を通して社会にでて社会人としての生活が待っている。

本校は規則がうるさくない、と考えられている。それは、規則に抵触しない範囲でのこと。高等学校としての規則は当然ながら存在し、機能しているのである。それをうるさく感じるか否かは本人の生活の仕方に関わっているのである。

さて、創立六十周年。人間で言えば還暦である。甲乙丙丁戊己庚辛壬癸と十二支の子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥の組合せで六十種類。六十年で一回り。我が向丘高校は六十歳を越えてどの様に進化していくのか。創立七十周年はどんな形で行われるのか。現在の私たちの活動に委ねられている。

（生徒部　久住和敏）

向丘高校学校行事平成一九年度

四月十日、前日入学式を済ませたばかりの新入生に対して、生徒会やクラブ活動から「新入生歓迎会」を行う。生徒会の役員への立候補の呼びかけやクラブ活動の活動内容など先輩より教わる。

五月十一日生徒会役員立ち会い演説会を行う。新一年生も三名が立候補し全員が当選となる。

六月は教育実習が始まる。殆どが本校卒業生である。二十日には生徒総会。定足数がどこの学校でも問題となるが、本校では問題なく生徒総会が成立する。ただ、意見表明や質問などが少ないのがこれからの課題である。また、このころより文化祭（向陵祭）の企画審査会が行われる。

九月二十二、二十三日。向陵祭。「ガオカ、欧米か？」がテーマ。気温と天気が心配であるが、学校経営計画にあるように、来場者数

を二千五百名以上になるように頑張りたい。
十月五日。遠足実施。
十月十三日(土)。学校説明会。
十一月十七日(日)。学校説明会。
二月。クロスカントリー(ロードレース)。
※本年度より二月実施となった。
三月六日(木)。卒業式。(生徒部　久住)

体育祭

生徒会行事の一環として実施している伝統ある体育祭は、校庭が狭いために外部施設を利用して行われている。平成四年五年は江東区夢の島グラウンドを使用し、六年度から文京区の六義園運動場にて十九年度まで開催している。

ここ数年は多少の種目変化はあるものの、個人競技は少なくなり、クラスを中心とした種目や、色別(一～三学年)での縦割りクラスの競技などチームワークが重要になる団体が主体の種目を選定している。これら種目は有志で組織された実行委員が全員にアンケート調査を行い選定している。種目の中でもクラスを中心とした一年生の大縄跳び、二年生のムカデ競争は授業中での練習をはじめ、朝練習など行うなどクラスが一丸となって勝利を目指して真剣に行われていて、当日は大変な盛り上がりを見せている。また、学年別全員リレーは生徒一人一人の思いをバトンに託して全力で必死に走る姿は単なる競争ではなく、生徒相互の若さあふれるエネルギーの爆発を感じさせ、見ている者をも引きつけるすばらしい競技となっている。

公開演技の有志チアも二十数名演技し体育祭に華を添えている。

今後もよき伝統を引き継いで今後の体育祭を検討し、外部施設を利用するといったハンデを克服して、特色ある向丘高校の体育祭を確立したい。

(十九年度体育祭プログラム)

一　選手入場　全員
二　開祭式　全員
三　準備運動　全員
四　一年全員リレー　一年生全員
五　棒引き　女子全員
六　男女騎馬戦　一二三年選抜男女
七　スピード綱引き　三年生全員
八　二年全員リレー　二年生全員
《昼休み》
九　チア　有志
十　障害物競争　一二三年選抜男女
十一　大縄跳び　一年生全員
十二　三年全員リレー　三年生全員
十三　ムカデ競争　二年生全員
十四　棒倒し　男子全員
十五　色別対抗リレー　一二三年選抜男女
十六　閉祭式　全員

(生徒部、保健体育科　荒川)

向陵祭

毎年九月に行われている文化祭。本校では向陵祭と呼んでいる。一年間の学校行事のうちでも一番時間を掛け知恵を絞り取り組んでいる行事である。十八クラスの企画やクラブ活動・委員会活動など各種団体から一学期の内から企画を練る。各団体出そろった企画を見て似た企画がないか、食品を扱う団体は仕入れや衛生面などで問題はないかなどと企画審査を行う。近年は食品を扱う団体の教員や生徒はすべて細菌検査を行うなど衛生面での指導も充実してきた。これだけの狭い校舎ですべての食品を扱う調理など調理室は二日間とも大変な状況になる。この地域の多くの都立高校の文化祭がこの時期に集中しているのでいくつもの高校を見て回る猛者も多い。しかし、本校に限って見学に来る人たちは本校のどんな点に関心をもって見に来るのだろうか。そして、天候などに影響を受けやすい入場者数など、予め予想するのは大変ではあるが、二千五百名以上を目標にしている。本校では生徒会の役員が各部所の仕事を受け持ってくれている。夏休み中から準備に大忙しである。二階の渡り廊下には早くからブルーシートを敷き九月の準備に向けて念入りな準備をしている。各団体は九月に入らないと本格的には動かないようではあるが八月から準備に入っているところもあるはずである。二日

間の文化祭当日だけでなく準備から後かたづけ・会計決算までが文化祭であることを考えればクラスなどの団結力を高めるのにはなくてはならない行事ではある。

向陵祭に向けて、玄関には向陵祭垂れ幕と飾り門が設置されて文化祭の雰囲気作りには打ってつけの装置となっている。入り口付近にある受付を済ませ、スリッパに履き替えていただければその奥に金券販売所が設置されて向陵祭全般に用いることができる。もちろん返金可能である。展示部門や食品部門などの表彰のための投票もお願いしている。また、二日目本祭終了後には、本校生徒のみによる後夜祭も行っている。音楽部門や選択科目で作成した衣装の発表会などに参加した生徒諸君を中心に協力的により恐ろしくスピーディーに片づけがされる。（生徒部　久住）

◆文化祭―らしさを求める―◆

今年で五十八回目を数える向陵祭も毎年ながら気合が入り、ラストスパートに向かっています。

私は先日、作文を書くにあたって十数年前の向陵祭について当時の行事委員長が書いた作文を読みました。それによると当時「見せる向陵祭」をめざしたが、結果は少し遠かったと書かれていました。確かに現代みたいにみんなが携帯を所持し、インターネットにアクセスできる時代ではなく、当時流行は「TV」か「ラジオ」、または「雑誌」のみで発信されていたのではないでしょうか。ですが私がガオカ生として通い向陵祭をつくっているいま現在、身の回りに様々な情報機関があふれています。そのおかげで、仕入先をインターネットや形態で調べることができ、レシピも簡単に手に入るようになりました。近年はそのおかげで少々流行にのっとった企画が見られるようになりました。今年もタピオカジュースや流行のアイスなども販売されます。このようにその時期、その時期に合わせた企画が向陵祭をよりいっそう豊かにしているのではないのでしょうか。これからの向陵祭も中学生・他校生・近隣の方々、ガオカ生が楽しむ事ができる向陵祭を築きあげたいと思っています。

私としては今日まで向陵祭に携わったなかで、一番の収穫は「協力」という言葉の意味を知ったことです。四月から様々な人々に向陵祭を成功させるためにいろんなことをお願いしました。最初はあんまり協力的ではなかった人も日が経つにつれ「やるなら最後までやろう」「やるときはやろう」と時には興奮しながらも向陵祭に力を貸してくれるようになりました。依頼したこちらも「ガオカ生らしい向陵祭」をみんなで力を合わせ全力投球でがんばってくれることが本当に嬉しいことでもあります。「やるときはやる」の精神はいつになっても廃れることの無いガオカ生の伝統であります。いつの時代も、そのときのニーズに合わせて「らしさ」がでる向陵祭もまたガオカの「らしさ」であり、今でも根っこの精神がいつも同じで流行の先取りをすることがガオカしかできないのではないでしょうか。

今年も「らしさ」を求めてより良い向陵祭になればいいなと思い、毎日学校に通う日々であります。

（生徒会長　二―六　鈴木　成美）

クロスカントリー（ロードレース）

本校伝統行事の一つ、クロスカントリー大会は平成十五年度より、荒川河川敷に場所を移し、千住大橋付近通称「虹の広場」前をスタートし、北は江北橋、南は堀切橋の間約六キロを往復するコースを使用して実施している。男子十二キロ、女子八キロの距離は、日頃から狭小地のグラウンドに慣れ親しんでいる本校生徒にとっては少々厳しいと思われるが、体育授業時五週間を掛け準備をして臨んでいる為、ほぼ全員が制限時間内に完走している。

クロスカントリーは、本校全教職員およびＰＴＡの理解と協力を得て、大きな事故も無く保健体育科主催の行事として永年にわたり実施させていただいている。この場をお借りして厚く御礼申し上げたい。また、平成十九年度からは名称を「ロードレース」と変更し、時期も二月に移して引き続き実施していく事になっている。（保健体育科　梅原惟司）

生徒会活動

本校の生徒会執行部は会長一名、副会長二名、書記二名、会計二名、行事委員会委員長一名、美化委委員会委員長一名、部担当委員一名によって構成されている。毎年六月に行われる生徒総会にて承認された公約にそって一年間活動している。主な活動内容はガオカ生の学校生活の改善を目指した活動と、行事の運営である。

特に大きな仕事の向陵祭は四月からスローガン検討にはじまり、六月の企画審査会など綿密にきめた予定表により行動している。七月から各参加団体が準備を始めるのがここ数年のスタイルでもある。執行部役員としても、各団体が成功したと思ってくれるのが一番の成功だと思っている。

向陵祭以外にも、新入生歓迎会では入学したての一年生がガオカに早く馴染めるよう2部構成で企画した。一部は今までは各クラスを生徒会執行部役員がまわっていたが、2年前から多目的室にて生徒会活動の説明をする形式にした。二部は部・同好会への加入を斡旋するため、各部・同好会による発表を体育館で行った。会としては一年生にも楽しんでもらうことができたと感じた。

しかし、ここ数年部・同好会への加入率は低迷を見せている。生徒会執行部としては公約として部・同好会の活発化を盛り込み、部・同好会勧誘活動の制限を緩和化、部担当委員からの新聞の発行部数を増やしている。これからも、ガオカ生一人ひとりが部・同好会によって学校生活が豊かになることを目指し、活動を続けていきたい。

また、美化活動・ＥＣＯ活動にも精力的に取り組んでいる。校舎を改築し、近隣高校や中学校でも評判な、きれいなガオカ、のイメージが近年崩れてきている。そのため、定期的な美化週間を設け、美化委員会が先頭となり美化活動を行っている。これからも、ガオカ生の美化意識の改善を生徒会執行部としても目指す。ＥＣＯ活動としては各教室に「リサイクル BOX」を設置し使用しない紙を燃えるごみとしてではなく、リサイクルペーパーとして収集することにした。ほかにも裏紙の使用をなども行っている。

ほかにも一般生徒を募集し、生徒会執行部役員を中心としたボランティア活動も例年行っている。昨年は文京区立汐見小学校の放課後開放ボランティア員として毎週火曜日・木曜日、週二回の活動をした。普段触れ合うことの無い地域の子供や保護者の方にも直接話す機会ができ、貴重な体験となった。

ここ五年間、生徒会執行部として電子データ化も積極的におこなっている。そのため、過去のデータを紛失することなく過去５年間の活動を閲覧でき、一般生徒への情報公開も簡単となった。

一年を通して行っているのは生徒会新聞の発行、生徒会誌『おおとり』の発行である。生徒会新聞は唯一全生徒へ生徒会執行部から発信できるものである。また、この新聞のみ電子化を行っていない。これからの役員にも手書きの新聞の伝統を引き継いでいってほしい。

生徒会執行部とガオカ生の距離感をこれからも埋め、身近な存在となりたい。そのためにも意見箱の増設などにより、要望を出しやすくするのも課題のひとつであると感じている。

（生徒会長　二―六　鈴木　成美）

部活動

部・クラブ活動の概況

現在本校には運動部一六、文化部一二、同好会三、有志団体一の計三四団体が活動している。校舎改築によって球技系の屋外種目は不自由を強いられているが、都の小石川運動場を使用したり、他の学校と合同練習を行うなど、各部活で工夫し、練習に励んでいる。

近況報告としては、陸上部で十六、十七年度女子四〇〇ｍにおいて関東大会に出場した。またサッカー部では、総体都大会出場、Ｄｕｏリーグ一部昇格などの成果をあげている。

文化部においても新しく書道研究同好会が発足したり、吹奏楽部が吹奏楽コンクールにおいて金賞を受賞している。その他の部活動についても、顧問の先生ご指導のもと、今ある施設を有効に活用し、日々努力を重ね、意欲的に活動している。

（生徒部部活担当、横山）

サッカー部

ぼくたちサッカー部は主に月・火・水・木・金の週五日で練習しています。土・日のどちらかは他校で練習試合をさせていただいたり、学校のグランドで練習したりしています。

月曜日は、基礎体力をつけるために上野公

園に走りに行き、火・木は一人ひとりの技術向上をねらった練習をし、水・金はチームでの戦術的な練習をしています。

サッカー部は、都大会出場という大きな目標を掲げて、プレーヤー、マネさん、顧問の先生とともに日々練習をしています。限られた時間の中、土ではないグランドを使って練習しているぼくたちにとって、この大きな目標を達成することは簡単なことではありませんが、顧問の先生の協力と部員のやる気で近いうちに達成したいと思っています。

（キャプテン　三―六　樋口　良太）

軟式野球部

土のグラウンドを持たないわが向丘高校にとって、軟式野球部があるということ自体が不思議なことであるが、さらにその活動はきわめて活発であり、成果もあげているといえよう。平日に三回の練習と、土日の練習試合が主な活動内容である。普段の練習は校庭で行っているが、月二～四回、サッカー部と合同で、文京区小石川グラウンドで練習をしている。また、足立区・荒川区の野球場を借りて荒川河川敷での練習も行っている。また、平成十七年度から夏季合宿も他の部と合同で実施するようになった。実績としては平成十六年の春、都大会に出場したのがベストであるが、毎年、少しでも上位にあがれるように努力しているつもりである。（顧問　大塚）

男女硬式テニス部

現在、硬式テニス部の部員数は多く、男子部と女子部に分かれて活動をしていますが、合宿は合同です。本年度、新入部員の数は昨年度をも上回り、一年生だけで男子が二十二名、女子が十名と、人気の部ではあります。試合実績は、自慢できるようなものではなく、練習量も決して十分とは言えませんが、生徒の長い人生の中で生涯スポーツとして活かせる技術と態度の基本を体得してもらえるよう期待しつつ活動を見守ってゆきます。

（顧問　宮田）

ソフトテニス部

本校のソフトテニス部は三学年三人・一学年五人合計八人で活動しています。活動日は週二回の練習です。先輩の話では、昨年まで活躍するチャンスも乏しく、強力な指導者にも巡り会えず、文字とおり「ソフトなテニス」を実践していたそうです。

今年度より一学年五人体制で頑張っています。夏休みも練習日を増やして来年の東京都大会には是非出場できるように練習に励んでいます。

（一―二　土田　優太）

陸上部

私たち陸上部は、一週間に五日練習しています。部員は現在十三人で楽しく活動しています。ここで陸上について説明致します。多くの方に陸上とは走るだけの単純なスポーツだと思われています。外から見れば、ただ走っている、ただ投げている、ただ跳んでいるように見えるのですが、競技者はその胸中にいくつもの想いを秘めているのです。そして、その想いを叶えるために、苦しく辛い練習にも耐えているのです。それぞれが持つ想いとは、夢であり、目標であり、様々なものがあります。しかし、この根底には自分のベスト記録の更新があり、日々そのために努力しています。これを読んで頂いた方の、陸上に対しての見方が変わって頂ければ幸いです。そう願ながら、今日も私たち陸上部は元気に楽しく走っています。

（部長　二―二　内山　将太）

男子バスケットボール部

男子バスケットボール部は、顧問の梅原惟司先生をはじめ三人の顧問の先生の下、火・水・金の放課後練習と土日祝日には練習や他校との練習試合などを行っています。先輩後輩の分け隔て無く、全員の仲が良いので、普段は楽しい雰囲気ですが、練習中は皆真剣に取り組んでいます。

代が代わってまだ間もなく不安も多いですが今年は一・二年生共に部員数も多く、活動的なので、これから部員全員が一丸となって成長していき、日々の練習を活かして、大会で目標としている結果が出せる様、頑張って行きたいです。

（二―六　阿部みずほ）

女子バスケットボール部

女子バスケ部は水・金・土曜日に体育館練習、月曜日に外練習をしています。

新しい代になり、人数は少ないけれどもやる気たっぷりな一、二年生が集まり、「勝ちにいくバスケ」をモットーに、基礎や体力作りを中心に練習しています。先輩後輩、プレーヤーマネージャー、もちろん顧問の先生方、とても仲が良く個性派ぞろいの楽しい部活で

す。チームがひとつになり目指すは三部！これから更に頑張っていきますので、今後の女バスの活躍をご期待ください☆応援よろしくお願いします。（二―三　青柳　希）

男子バレーボール部

新一年生の加入により部員が六名になり、まる二年振りに大会に参加することができました。六月のインターハイ予選です。残念ながら、その後二人の三年生の引退と共に一年生部員は辞めてしまいました。現在、再建に向けて一年生部員を募集しているところです。バレーボール人気の低迷と共に、中学校では廃部が相次ぎ、逆に高校から始めてもハンデではない種目となってきました。向丘高校男子バレー部の六人以上での活動と活躍を目標にしています。（顧問　荒川智行）

女子バレーボール部

私達バレー部は、主に火・木・土の週三日練習しています。現在、部員は一年生五人、二年生四人の計九人ですが、学年が違っても仲良くバレーボールを楽しんでいます。阿部先生のご指導のもと、試合に向けての練習も頑張っています。意見が合わない時は、徹底的に話し合い、よりよい部活動になるように努力するつもりです。少しでも個人の技術が上達するよう、基礎練習を積み重ね、そして六人でコートに入った時には、より力が発揮できるようになりたいと思います。

何よりもバレーボールが大好きな私達ですが、これからも努力し成長していきたいと思います。（部長　二―四　山本　穂奈美）

バドミントン部

私たちバドミントン部は、月・木曜日と大会前は土・日曜日に、体育館で練習しています。高校に入ってからバドミントンを始めた部員も多いので、練習の内容は基本的なものと試合が中心です。ここ一～二年は大会の成績はよいものは残せていませんが、今年は一年生の新入部員も多く、とても期待しています。六月で三年生は引退しましたが、これからは二年生を中心に「新バドミントン部」として頑張ってほしいです。

顧問の先生には、休日の練習や大会の引率など、色々とお世話になりました。ありがとうございました。（三―五　菅沼　将哉）

柔道部

向丘高校柔道部はこのところ部員が集まらずに一昨年までは休部状態でした。昨年は一年生二人の部員で、二年生の有段者が時々練習を見に来てくれました。今年は一年生が入部し、現在は男子四人、女子二人の計六人で活動しています。大体平日の五日間、柔道場で練習しています。練習内容は立ち技や寝技などをやっていますが、筋トレや技の研究などもやっています。

柔道部の目標は大会で優勝することです。今年は五年ぶりに高体連に登録し、個人戦ですがインターハイの予選に出場しました。一人は一回戦で一本勝ちできました。この調子で一戦、一戦勝利していき大会で優勝したいです。また、部員数をもっと増やして団体戦にも出場し、良い結果を残していきたいと思っています。そのためには毎日の練習を大切にしていく必要があると思います。それが目標を達成するための一番の近道になるはずです。（二―二　伊勢　弘）

剣道部

現在剣道部は、男子十二名・女子八名で週三日程度「楽しさ」と「自主性」をモットーに活動しています。

今、私たちには指導者がいません。しかし、その中で先輩や後輩という枠を越えて注意し合うことで、お互いの技術も高め合っています。その証拠に、新人戦の女子個人で三位に入賞、インターハイ予選で女子団体が都ベスト三十二に入るなどの功績を残しています。また、ほとんどの部員が段を取得しており、実技以外の型や剣道の心得なども学んでいます。こうしたものが、部員たちへの負担になるのではなく、これからの励みになることを願っています。（三―一　井坂　美幸）

空手道部

私たち空手部は、現在、週三回の月、水、金曜日に活動をしています。全日制の活動ですが定時制の小沼先生にご指導を頂いていて、とても恵まれています。活動内容は、主に体操・型・組み手です。少し説明すると、型は組み手の攻撃や受けなどの技を連続で出し、技の出し方や腰の高さなどを審査で見られ、級や段を取るのにとても大事なものです。高校に入ってから始めた部員は『意外と奥が深く、やり続けるとおもしろい』と言っています。部員は少ないですが、真剣に（時には

和やかに）練習をしています。都立高校で空手道部があるところが珍しいみたいで、時々中学生が見学に来ます。部員を増やし、団体戦出場を復活させたいです。

（三―三　仲畠　祐亮）

ラグビー部

ラグビー部は、現在二年生二人・三年生一人の計三人で活動しています。主に、火・木・金は学校で、土・日は他校と合同で練習をしています。練習内容は、パス練習やタックルなどの基本的なものを中心に、大会に向け各ポジションごとのゲームでの動き方や技術力の強化を中心に頑張っています。

我々ラグビー部は現在部員が少ないので、今は他校と合同チームを組んでいますが、いつか向丘高校単独でチームを作り、大会に出場したいと思っています。日々、新入部員の獲得に全力を注いでいます。興味のある方は、ぜひラグビー部に来てください。そして、一緒にラグビーをして友情を深めませんか？

（二―一　陸川　裕太）

演劇部

演劇部は、今年新入部員を四人加えて、五人となりました。人数も増えたので、今年は文化祭に参加できそうです。現在、文化祭に向けて練習中です。二年ぶりの演劇部の発表のため、暗中模索ですが、頑張っています。

（演劇部長　二―四　中野　翔馬）

イラスト部

私たちイラスト部は、毎週水曜日にB棟3階にある美術室で活動しています。

主な活動内容はテーマ（映画・メガネ・キラキラなど）を決め、イメージでイラストを描いて二ヶ月に一冊のペースで部誌を製作しています。また、向陵祭では昨年度玄関に飾る「垂れ幕」を製作しました。夏に美術室でペンキまみれになりながら、部員全員が一丸となって十メートル以上もの大きな垂れ幕を完成させました。他にカラーボードの展示などもしています。向丘の冊子「おおとり」のカットもイラスト部の製作です。

その他時間のある時は、楽しく会話したりしています。先輩、後輩の関係なく楽しく仲良く活動しています。（二―五　高橋　紀子）

美術部

美術部は現在、二年生四人と一年生四人。こぢんまり・和気アイアイとした雰囲気で、楽しく活動しています。前顧問の太田先生（美術科）が赴任された七年前にはなんと美術部がなく、美術同好会から再スタートしたそうです。その後、着実に地歩を築き、毎年十二月に池袋・東京芸術劇場で開催される東京都文化祭中央展に出品。平成十五（二〇〇三）年には三年生・狩野君が全都で最高得票を取り「奨励賞」を受賞、昨年度も三年生・西角さんが「奨励賞」を受賞しました。感性豊かなガオカ生の芸術魂を、今後も楽しみつつ結実させていきたいと思います。（顧問　平山）

吹奏楽部

こんにちは。吹奏楽部です。私たちは少ない人数ながらも日々頑張っています。夏にはコンクール。秋には文化祭や高等学校文化連盟の地区音楽会。冬には中央音楽会やアンサンブルコンテスト。春には定期演奏会も行っています。【吹奏楽部】…といえば、みなさん堅苦しいイメージを持つでしょうが、本当は音楽、楽器を純粋に楽しむ愉快な部活なのです!!

吹奏楽には金管、木管、打楽器があり、この三つのハーモニーが大切で美しく、吹奏楽の醍醐味なのです♪　クラシックばかりでなく、ポップスやラテン、サンバ、ジャズなどのイケてる☆曲も演奏しています。そして吹奏楽独特の吹奏楽曲というのも演奏します♪

一度演奏会に足を運んでいただければ、曲のバリエーションの多さ、吹奏楽の楽しさがお分かりになると思います!!　意見の食い違いでぶつかる時もありますが、一つ一つ解決し、みんなで音楽を楽しんでいます!!　これからも私たち吹奏楽部は自分たちも楽しくて気持ちいい…お客さんも楽しくて気持ちいい演奏を目指して努力していきます!!　応援よろしくお願いします!!

一音入魂！！！！！！

（二―一　中村　真由子）

茶道部

私たち茶道部は、三年生二人、一年生一人と3人で活動しています。毎週火曜日と金曜日が活動日です。お師範の山田仙秀先生に茶道の精神・お手前などいろいろ教えていただいています。向陵祭でのお茶会に向けて日々練習に励んでいます。お手前の所作の一つ一つが日常生活にも自然に取り入れられるよう

に努力しています。

（三―六村上）

写真部

私たち写真部は顧問の大山先生・坂口先生のご指導の下、活動をしています。部員は少なく、活動も不定期で個人での撮影が中心です。しかし、よりよい作品を残すべく努力しています。写真部にとっての大きなイベントは、文化祭です。毎年テーマを設定し、それに沿った作品を暗室・前室にて展示をします。今年も「Lost time」というテーマに沿って日々被写体を模索しています。また、この文化祭の他にも、コンクール等にも積極的に応募していこうと思っています。

（三―一　熊田　芽衣）

軽音楽部活動報告

軽音楽部は現在部員が六十名以上いるすさまじく大きな部活です。毎日五階の習熟室で活動しています。機材のセットや片付けに時間がかかるため十分な活動時間が取れないのが悩みです。

音楽というものはクリエイティブな活動であり、また日頃の鬱憤・ストレス・悩みを吹っ飛ばしてくれるものです。力の余っている人はその力をぜひ軽音楽部で使ってください。向丘で最も熱く、激しく、青春あふれる軽音楽部です。（部長　二―二　大草　周朋）

生物部

この数年は二・三人の部員で活動しています。先輩から後輩への引継ぎもうまくいっていないのですが、それでも生き物の飼育を中心に活動を続けています。現在、プラティ、アカハライモリ、キンギョ、ウーパールーパーがおります。

毎年向陵祭では展示を中心に企画しています。ただ人数が少ないこともあり、夏休み前より計画・作業に入り何とかそれなりの形で行なっています。今年は、目玉のウーパールーパーグッズ販売に加えて、上野動物園についての研究発表をします。（顧問　工藤）

地球環境部

私たち地球環境部は、現在、毎週火曜日と金曜日に活動をしています。活動内容は、主に情報収集と研究です。昨年の文化祭では「地球温暖化」について展示発表をしました。現在は今年度の文化祭に向けて、絶滅危惧種や太陽系のこと、星座のことについて調べています。プラネタリウムがあるので、これも活用していく予定です。夏休みには、今年も昨年に続き打ち水に参加する予定です。部員は二年生五名だけですが、みんな仲良く楽しんで活動しています。（二―一　広瀬　真以）

文芸同好会

昨年までは地味に狭く活動していましたが、顧問の先生が替わったと同時にヤル気が上昇してきました。文芸同好会というと正体がわからず「謎の集団」という印象を持たれがちですが（いいえ、私たちがそれを望んで正体を隠していました）、今年は向陵祭でも表舞台に出て積極的に活動するという新たな展開を計画しています。

現在メンバーは四名。少人数ながらもキャラが濃ゆいので大丈夫。毎年二～三冊のペースで「艸子（そうし）」を発行しています。今年も向陵祭と学年末に二冊発行したいと思っています。メンバーは他の部活もかけもちしていてなかなか集まる機会がありません。そのため、先生から渡されたフロッピーに各自で詩や小説を打ち込むという進め方をしています。暇のない人でも参加可能です。

明るく楽しく活動して、私たちらしい「艸子」を作りたいです。（二―五　寺内　希）

ストリートバスケット同好会

バスケットを気軽に楽しむ者同士のこの会は、月と水曜日に多目的コートで活動しています。本格的なバスケットボール部と違い基礎練習などの訓練はなく、活動に出てきたメンバーによってゲームをしたり、一人でシュート遊びをしたりしています。同好会であるので予算はつきません。しかし合宿したいという声もあり、今後活動内容が定まってきたら部への昇格をお願いしようと思います。常に二チームに分かれてゲームができる活動をしていきたいと思います。

学校説明会（入試動向を含む）

この十年で、定時制高校を中心に多くの都立高校の再編が進み、様々な新しいタイプの都立高校が開校している。都民のニーズにかなう方向で改善がなされることを期待する一方で、従来の定時制高校を惜しむ声も少なからずあり、今まさに検証をした上で改善を加える必要がある。

本校は、周りの波風にあまり左右されずこの十年、普通科の都立高校としての位置を保ってきた。平成十五年度からは、学区制が廃止され、加えて旧四学区の就学者数の減少もあってか、他学区からの入学者の増加が顕著になっている。

例年、十月と十一月に中学三年生とその保護者を対象に、授業見学と説明会を実施してきた。今年度はかなり顕著な形で表れているが、説明会への参加数と受検倍率には相関があり、参加数が少ないと倍率も低い傾向が見られる。様々な観点から数値の検証を行なったが、はっきりせず、複合的な要因が重なったことに原因があるように思われる。

よって今年度は募集活動に様々な工夫を加えることにしている。募集エリアの再検討、学校案内の表記、さらに、クラブ体験ウィークの導入など、魅力ある学校のイメージ作りを図って行きたいと考えている。また、在校生の進学実績の向上、学校生活の充実等も、大きく影響を及ぼすので、学校全体での取組みが必死である。

本年度六十周年を迎えるにあたり、本校は大きな転機を迎えようとしている。

入試倍率と出身地区別生徒数の変遷

	年号 西暦	平成10 1998	平成11 1999	平成12 2000	平成13 2001	平成14 2002	平成15 2003	平成16 2004	平成17 2005	平成18 2006	平成19 2007
男	一般	2.24	2.15	1.16	1.68	1.34	1.87	1.23	1.37	1.30	1.10
	推薦	4.64	4.38	4.00	4.20	3.92	6.71	3.25	5.21	3.79	2.67
女	一般	2.67	2.55	2.00	2.12	1.54	2.26	1.71	1.76	1.74	1.43
	推薦	9.38	10.14	6.72	9.48	5.36	12.32	6.45	6.82	6.23	3.50
旧四学区 文京	男	19	17	12	21	11	13	11	5	7	13
	女	10	12	13	11	10	5	5	7	4	1
旧四学区 豊島	男	12	17	17	21	18	11	9	8	17	12
	女	13	16	11	18	16	6	8	9	9	7
旧四学区 北	男	39	30	34	36	31	33	22	30	23	14
	女	35	36	33	23	27	28	17	20	16	15
旧四学区 板橋	男	40	37	20	14	11	20	27	16	19	17
	女	34	25	25	26	20	20	15	14	31	32
旧四	男	110	101	83	92	71	77	69	59	66	56
	女	92	89	82	78	73	59	45	50	60	55
旧五	男	9	5	14	16	25	18	28	46	33	33
	女	11	17	24	25	31	37	42	36	33	30
旧六	男	3	5	7	5	9	12	13	14	15	9
	女	7	7	17	8	17	15	18	19	17	24
他	男	0	8	7	4	9	7	10	4	8	2
	女	7	11	9	14	11	21	14	13	9	20
計	男	122	119	111	117	114	114	120	123	122	110
	女	117	124	132	125	132	132	119	118	119	129

図書館を利用するということ

ある日の放課後の図書館にて。

本を借りに来る人、試験（受験）勉強する人、進路の本を探す人、雑誌を読みながらくつろぐ人、インターネットをする人、文化祭企画を話し合う人、友達との待ち合わせに利用する人、バイトまでの時間つぶしをする人、私に相談（おしゃべり？）しようとする人、なんとなく来ている人…。それぞれが自分の形で図書館を利用しています。

学校生活の中でひとつの居場所として、ひとつの選択肢として図書館が確実に根付いているなと感じます。

「なぜ学校の中に図書館があるか」ということを考えたことがありますか。

ひとつは学校の教育課程の展開に寄与すること。ふたつには将来の図書館利用者を育てることです。「何か困ったことにぶつかったとき、図書館に行って調べてみよう」という発想を持つこと。図書館は「知る権利を保障する施設」です。知識や情報がいつでもどこでも無料で手に入れることは私たちの権利であり、その権利を保障する施設として図書館があります。将来社会に出て、公共図書館や大学図書館を利用することができるよう、図書館を身近に感じ、その使い方を学ぶために、学校の中に図書館はあります。

（司書教諭梅原由紀子）